

ライフケアガーデン湘南 3階

症 例 概 要 利 用 者：90代 男性 要介護5

利用期間：2024年7月～11月現在

経過：入居時後、車椅子から立ち上がりテーブルを倒す事や独歩困難だが歩くなどの危険な行動や、大きな声で怒り職員に対して手や足が出る事があった。

生活歴をもとに関わり方の工夫やユマニチュードの実践により、徐々に危険な行動が減少して穏やかに笑顔で過ごされるようになった事例。

内 容

2024年4月頃、通院途中に転倒。右大腿部頸部骨折、観血的整復固定術施行。

病院では認知症と難聴あり、意思疎通困難、危険行動で安全ベルトやセンサー類を使用し転倒しないよう対応された。

リハビリは意欲的だが、年齢的・認知面から自宅復帰困難な状態と判断され当ホームへ入居となる。

入居当初から転倒に繋がるような行動。食後の服薬拒否や脱衣行為。ハサミでズボンを切ると言いハサミを探し常に支えながら歩行、途中力尽きて床に座り込み大声で誰かを呼ぶという行動があった。

夜間一睡もされず、テーブルをひっくり返し車椅子から降りる事や、大きな声で妻の名前を呼びながら室内を捜しまわり対応が非常に困難な場面があった。

その為、皮下出血や外傷が続いた。

ご本人が落ち着いて過ごされる場面や集中される内容等の情報をスタッフ間で共有し、適切な関わり方を現場で検討しケアの統一をした。

職員との会話で、海軍に所属し潜水艦に乗っていた事や広島県警所属の話をしている時にとても生き生きと目を輝かされていた。

その内容をスタッフ間で共有し、ご本人から手旗信号の話があり実際に手旗と一緒に作成し、スタッフに教えるレクリエーションをしていただいた。

とても楽しそうに教えていた。

海軍のお話や剣道や柔道の動画を見て頂く事で危険な行動や不穏な状態が明らかに減少していった。

ご家族には他施設入居中の妻との面会を相談し他施設との連携をすることで来ていただく事が出来た。

久しぶりのご家族との再会にとっても喜ばれて、かけがえのない時間になりました。

会話の中から知る事ができた「生活歴」に着目したケアの提供とユマニチュード実践で、現在は穏やかに過ごされ笑顔が増えている。

今後もしもご入居者を知り、ユマニチュード・親身な対応を続け、愛情を持って親身な対応で安心して過ごして頂けるよう努めて参ります。